

食品安全情報（化学物質） No. 1/ 2015（2015.01.07）

国立医薬品食品衛生研究所 安全情報部
(<http://www.nihs.go.jp/hse/food-info/foodinfonews/index.html>)

目次（各機関名のリンク先は本文中の当該記事です）

[【FAO】](#)

1. FAO と関係機関は深刻なバナナの病気に世界的対応を要請

[【EC】](#)

1. 食品及び飼料に関する緊急警告システム（RASFF）

[【DEFRA】](#)

1. 政府はミツバチの命綱を提供する蜘蛛毒プロジェクトに資金を提供

[【NHS】](#)

1. Behind the Headlines：健康ニュースの読み方

[【ASA】](#)

1. ASA 裁定

[【RIVM】](#)

1. マイクロプラスチックの発生源と排出のクイックスキャンと優先順位付け

[【ANSES】](#)

1. ミツバチの健康：知識と展望レビュー

[【FDA】](#)

1. FDA はある種のビールの表示について最終ガイダンスを発表
2. 消費者向け情報：魔法の減量を約束する製品に注意
3. 公示
4. 警告文書
5. 敏感な集団を食品中の汚染物質から守る

[【EPA】](#)

1. EPA の改訂クロルピリホス評価は労働者へのリスクを示す

[【USDA】](#)

1. USDA は農薬データ計画の 2013 年年次要約を発表
2. USDA はジカンバ/グルホシネート耐性綿およびジカンバ耐性大豆についての最終環境影響声明を発表
3. 添加溶液を含む生肉及び家禽製品の説明表示

[【NIH】](#)

1. 多くの消費者がインチキの減量サプリメントにまどわされている、調査の結果

[【NYC DOHMH】](#)

1. 保健省は食品販売業者がより健康的な食品を容易に強調できるようにする「グッドチョイス」イニシアチブを開始

[【PMRA】](#)

1. 再評価通知 REV2014-06、特別レビュー開始：ウリ科植物に使われるクロチアニジン、イミダクロプリド、チアメトキサムへの *Peponapis pruinosa* 暴露に関連する環境リスクの可能性について

[【MPI】](#)

1. 行楽客に貝中毒リスクが高いことを警告

[【香港政府ニュース】](#)

1. 野菜・果実の農薬検出

2. 99.9%の検体は安全性検査に合格

【[MFDS](#)】

1. 日本産輸入食品の放射能検査の結果
2. 「民間専門家委員会」日本の放射能安全管理現地調査の実施
3. 飼料用に輸入した原料で製造した「プロポリス」製品の回収措置
4. ミックスドリンクが身長伸びに効能があるかのように虚偽・誇大広告した会社摘発

【[AVA](#)】

1. 台湾産 Huang Dah Mu ブランドの乾燥豆腐リコール
2. スイス産 Holle ブランド乳児用食品から認可されていない化合物が検出されたためリコール

【[その他](#)】

- ・(EurekAlert) 1996年から2013年の間にファストフードの大きさや組成はあまり変化していない
- ・書誌事項

●国連食糧農業機関 (FAO : Food and Agriculture Organization of the United Nations)

<http://www.fao.org/>

1. **FAO** と関係機関は深刻なバナナの病気に世界的対応を要請

FAO and partners call for a global response to deadly banana disease

23 December 2014

<http://www.fao.org/news/story/en/item/271647/icode/>

バナナの深刻なフザリウム立ち枯れ病の急速な拡大を防ぐために世界的対応が必要だと呼びかける。経済上及び食糧安全上の深刻な問題となっている。

●欧州委員会 (EC : Food Safety: from the Farm to the Fork)

http://ec.europa.eu/food/food/index_en.htm

1. 食品及び飼料に関する緊急警告システム (RASFF)

Rapid Alert System for Food and Feed (RASFF) Portal - online searchable database

http://ec.europa.eu/food/food/rapidalert/rasff_portal_database_en.htm

RASFF Portal Database

<https://webgate.ec.europa.eu/rasff-window/portal/>

2014年第52週～53週、2015年第1週の主な通知内容 (ポータルデータベースから抽出)

* 基本的に数値の記載がある事例は基準値超過（例外あり）

* RASFF へ報告されている事例のうち残留農薬、食品添加物、食品容器、新規食品、カビ毒を含む天然汚染物質の基準違反等について抜粋

警報通知 (Alert Notifications)

ポルトガル産冷凍ヨシキリザメの水銀(1.2 mg/kg)、ポルトガル産冷凍皮なしホシザメの水銀(2.31 mg/kg)、ポルトガル産冷凍メカジキの水銀(1.2 mg/kg)、オランダ経由英国産バスマティ米のアフラトキシン(B1=2.60 µg/kg)、オランダ経由中国産食品サプリメントの未承認物質シルデナフィル・シルデナフィルチオノ類似物及びバルデナフィル、スペイン産冷凍メカジキの水銀(1.4 mg/kg)、ベルギー経由原料エクアドル産スペイン加工冷凍調理済エビの禁止物質ニトロフラン(代謝物質)フラゾリドン(AOZ) (4 µg/kg)、ルーマニア産チーズのダイオキシン様 PCB (4.19 pg WHO TEQ/g)、オランダ経由中国産乾燥藻類のヨウ素高含有(3439 mg/kg)、スペイン産塩水入り白トウモロコシの亜硫酸塩非表示(95 mg/kg)、ドイツ産殻剥きクルミの亜硫酸塩非表示(54 mg/kg)、など。

注意喚起情報 (information for attention)

スロバキア経由トルコ産乾燥イチジクのおクラトキシン A (12.1 µg/kg)、米国産煎った塩味ピーナッツのアフラトキシン(B1=5.3; Tot.=6.3 µg/kg)、タイ産冷凍洗浄済全形イカのカドミウム(1.9 mg/kg)、スペイン産ブドウのエテホン(1.4 mg/kg)、中国産小スプーンからのニッケルの溶出(0.3 mg/kg)、モロッコ産チリペッパー入りヒマワリ油漬イワシのヒスタミン(394 mg/kg)、ポーランド産食品サプリメントの未承認物質シルデナフィルチオノ類似物及びジメチルシルデナフィル、ポーランド産トマトのエテホン(14.550 mg/kg)、イタリア産ポルチーニ茸の照射非表示、中国産缶入りライトシロップ漬け半割ナシからのカドミウムの溶出(0.376 mg/kg)、など。

フォローアップ用情報 (information for follow-up)

ルーマニア産冷凍鶏肉のおキシテトラサイクリン及びクロルテトラサイクリン、デンマーク産反芻動物用飼料サプリメントに反芻動物 DNA の存在の可能性、チェコ共和国経由タイ産イワシのカドミウム(0.099 mg/kg)、インド産米の入った段ボール箱からのベンゾフェノンの溶出(3.4 mg/kg)、ブラジル産缶入りコンビーフのアルベンダゾール(256 µg/kg)、ブラジル産冷凍牛ミンチ肉のアルベンダゾール(536 µg/kg)、ベトナム産冷凍ウナギの未承認物質ペルメトリン(0.051 mg/kg)、ギリシャ産オリーブ粕油の多環芳香族炭化水素、など。

通関拒否通知 (Border Rejections)

ケニア産豆のクロラントラニリプロール(0.072 mg/kg)、ベトナム産ドラゴンフルーツのカルベンダジム(1.2 mg/kg)、中国産ナイロントングの一級芳香族アミンの溶出(0.72; 0.65; 0.56 mg/kg)、イラン産ピスタチオのアフラトキシン(B1=119; Tot.=253 µg/kg ; B1=31; Tot.=34.6 µg/kg ; B1=70.4; Tot.=79.5 µg/kg)、エジプト産イチゴのメソミル(0.18 mg/kg)、タイ産チリペッパーのイプロバリカルブ(0.066 mg/kg)及び未承認物質カルボフラン(0.039 mg/kg)、ガンビア産ピーナッツ穀粒のアフラトキシン(B1=70 µg/kg)及び同鳥餌用(B1=185

μg/kg)、トルコ産乾燥イチジクのアフラトキシン(B1=12.7; Tot.=14.5 μg/kg)、ケニア産豆のメタラキシル(0.29 mg/kg)、エジプト産生鮮イチゴのプロフェノホス(0.560 mg/kg)、中国産トースター用鉄製プライヤー(1.1 mg/kg)及び鉄製パーツ(0.7 mg/kg)からのニッケルの溶出、インド産カレーの葉のプロフェノホス(7.5 mg/kg)及びトリアゾホス(0.99 mg/kg)、台湾産ジャスミン・ウーロン・高山緑茶のクロルピリホス(0.44 mg/kg)・シペルメトリン(1.68 mg/kg)・アセタミプリド(0.25; 1.05 mg/kg)・イミダクロプリド(0.38 mg/kg)・シハロトリン(0.09 mg/kg)及び未承認物質ジノテフラン(0.32 mg/kg)、ナイジェリア産乾燥豆のシハロトリン(0.06 mg/kg)及び未承認物質ジクロルボス(0.07 mg/kg)、トルコ産煎ったピスタチオのアフラトキシン(B1=10.3; Tot.=26 μg/kg)、トルコ産鉄格子からのニッケルの溶出(0.43 mg/kg)、ナイジェリア産乾燥豆の未承認物質ジクロルボス(0.03 mg/kg)、など。

その他アフラトキシン等多数。

-
- 英国環境・食料・農村地域省 (DEFRA : Department for Environment, Food and Rural Affairs) <http://www.defra.gov.uk/>

1. 政府はミツバチの命綱を提供する蜘蛛毒プロジェクトに資金を提供

Government funded spider venom project to provide lifeline for bees

24 December 2014

<https://www.gov.uk/government/news/government-funded-spider-venom-project-to-provide-lifeline-for-bees>

蜘蛛の毒素のペプチドを利用した、標的種以外には害がなく経口で効果のある環境に優しい殺虫剤の開発などに政府が出資する。

-
- 英国 NHS (National Health Service、国営保健サービス)

<http://www.nhs.uk/Pages/HomePage.aspx>

1. Behind the Headlines

健康ニュースの読み方

How to read health news

By Dr Alicia White

Tuesday December 23 2014

<http://www.nhs.uk/news/Pages/Howtoreadarticlesaboutthehealthandhealthcare.aspx>

もしあなたが朝のコーヒーを吹き出しそうになる健康関連の見出しを見たら (「コーヒー

ががんの原因」のような)、まず落ち着いて続きを読もう。続きを読むと、見出しには重要なことが書いていないことがわかるだろう、例えば「5匹のラットに極めて高濃度のコーヒーを注射したら細胞に将来がんになる可能性のある変化が見られた。この研究は紅茶販売協会がお金を出した」ということを。忘れてはならない最も重要なルールは、見出しをそのまま信じてはいけない、ということである。見出しはあなたに新聞を買わせ記事を読ませるためのものである。もし「コーヒーはがんの原因にはなりそうにないが、ひょっとしたら」という見出しだったら読まないだろう。将来新聞にコーヒーを吹き出さないようにするには、あなたはその記事が研究について何を述べているのかを分析する必要がある。私(筆者)が働いている企業 Bazian は NHS Choices にある Behind the Headlines の数百の記事を評価し、あなたが信用すべき記事とそうでない記事を見分けるための以下の質問を作成した。

その記事は科学的研究に基づいた主張をしているか？

最初に、ニュースのもとになった研究を吟味しよう。もしその記事が治療法を謳っていたり、病気の予防や原因となるライフスタイルについての内容なのに根拠になる研究についての情報を提示していなければ、相当疑ってかかるのがよい。論文になっていない研究についても同様である。

その記事は学会の要旨に基づく？

学会発表はしばしば予備的なもので専門家による吟味を受けていない。また実験方法なども詳しくはわからないので、要旨に基づく記事で騒ぐ必要はない。

その研究はヒトでのものか？

しばしば「魔法の治療法」という見出しは培養細胞やマウスの実験だったりする。多くの場合、実験室で期待された薬物はヒトでは効果がない。ラットを治療する食品が将来ヒトで有効な可能性はあるが、残念ながら効果がない可能性の方が大きい。

その研究は何人のヒトで行われた？

一般論として規模の大きいものの方が、信頼性が高い。

その研究には対照群があるか？

治療や暴露による影響を調べるためには RCT (無作為化対照試験) がゴールドスタンダードである。

その研究は見出しにあることを本当に調べたのか？

これは少しトリッキーである。例えば「トマトが心臓発作を減らす」という見出しがあったとしても、実際の研究はトマトが血圧を下げる、という結果の場合がある。これは誰かが想像で解釈をしたことを意味する。

研究費はどこから出ているか

多くの研究は企業が出資している。このことは意識的・無意識的に研究者に影響する。企業がスポンサーの場合は信頼できないということではない。

あなたは「メッセンジャーを撃つ」べき？

誇大宣伝は必ずしもメディアが原因ではない。間違った主張はどこからでも出てくるの

で自動的にメディアが悪いと判断すべきではない。

さらに知るためには？

Behind the Headlines では主な記事への上記の質問について記載している。興味がある人は過去記事を見て欲しい。

* Latest Headlines

<http://www.nhs.uk/news/Pages/Howtoreadarticlesabouthealthandhealthcare.aspx>

● 英国広告基準庁 (UK ASA: Advertising Standards Authority)

<http://www.asa.org.uk/>

1. ASA 裁定

ASA Adjudication on Caviar Classic London Ltd

24 December 2014

http://www.asa.org.uk/Rulings/Adjudications/2014/12/Caviar-Classic-London-Ltd/SHP-ADJ_283633.aspx#.VJtuxAC5Q

キャビアの宣伝について。最高級のベルーガ・キャビアは *Huso huso* (オオチョウザメ) の卵だが、アムールチョウザメ (*Acipenser schrenkii*) とベルーガチョウザメのハイブリッドの卵をアムールベルーガキャビアと宣伝していた。ハイブリッドであることを説明しないと、専門家ではない消費者はベルーガキャビアと誤認すると考えられるため基準違反に該当する。

● オランダ RIVM (国立公衆衛生環境研究所 : National Institute for Public Health and the Environment)

<http://www.rivm.nl/en/>

1. マイクロプラスチックの発生源と排出のクイックスキャンと優先順位付け

Quick scan and Prioritization of Microplastic Sources and Emissions

2014-12-17

http://www.rivm.nl/en/Documents_and_publications/Scientific/Reports/2014/december/Quick_scan_and_Prioritization_of_Microplastic_Sources_and_Emissions

最終的に海に出る可能性のあるマイクロプラスチックの地上の発生源についての目録を作成した。マイクロプラスチックは 5 mm より小さい粒子のことでフードチェーンに入る可能性がある。発生源は、各種製品、製造工程、あるいは川を経て海まで輸送される行程

である。

最も優先順位が高かったのは二次マイクロプラスチックの発生源であった。二次マイクロプラスチックの最も大きな発生源は大きなプラスチック断片が壊れてマイクロプラスチックになることであり、次いで繊維及び衣料品、タイヤのダストを含む道路、農業用プラスチックなどであった。製品に特殊機能を持たせるために意図的に添加される一次マイクロプラスチックについては、化粧品や塗料に添加されるもので優先順位が高かった。

●フランス食品・環境・労働衛生安全庁 (ANSES : Agence Nationale de Sécurité Sanitaire de L'alimentation, de L'environnement et du Travail)

<http://www.anses.fr/>

1. ミツバチの健康：知識と展望レビュー

Bee health: review of knowledge and outlook

18/12/2014

<https://www.anses.fr/en/content/bee-health-review-knowledge-and-outlook>

12月9日に開催されたイベントの概要。ミツバチの死亡率のサーベイランスと残留農薬モニタリングなどについて検討された。ミツバチの健康に影響する複数要因の理解のための研究がさらに必要であることを確認した。

*参考：食品安全情報（化学物質）No. 26/ 2014（2014. 12. 24）

<http://www.nihs.go.jp/hse/food-info/foodinfonews/2014/foodinfo201426c.pdf>

【ANSES】ANSESの科学会議：ミツバチの健康に向けた一日のイベント

●米国食品医薬品局 (FDA : Food and Drug Administration) <http://www.fda.gov/>,

1. FDAはある種のビールの表示について最終ガイダンスを発表

FDA Issues Final Guidance on Labeling of Certain Beers

December 22, 2014

<http://www.fda.gov/Food/NewsEvents/ConstituentUpdates/ucm427359.htm>

2009年8月に案が発表されたFDA表示規則の対象となるラベル付きボトル入り・他の容器入りビールに関する製造業者向け最終ガイダンスを公表した。

「麦芽飲料 (malt beverages)」の定義に合致しないために連邦酒類管理法 (the Federal Alcohol Administration Act) による表示規制が適用されないビールが対象となる。具体的には、大麦麦芽とホップではなく、ソルガムやコメや小麦などの大麦麦芽代用品を使用し

た、あるいはホップを含まないビールである。これらについては FDA による食品表示法規制に従い、栄養成分表示などの義務がある。同時に酒類管理法によるアルコールの健康警告表示は引き続き必要となる。

2. 消費者向け情報

魔法の減量を約束する製品に注意

Beware of Products Promising Miracle Weight Loss

Updated January 5, 2015

<http://www.fda.gov/ForConsumers/ConsumerUpdates/ucm246742.htm>

「今年こそ痩せよう」とよくある新年の決意をしたなら、いわゆる「魔法の」減量サプリメントや食品（コーヒーや紅茶を含む）の宣伝は信じないこと。悪いことに、それらは重大な有害影響がある可能性がある。FDA はこれまで、ダイエタリーサプリメントとして販売されているが実際には処方薬や有害な成分を含む数百もの製品を確認している。

- 不正製品 (tainted products) : 表示されずに処方薬が含まれていることがある、など。多くは輸入、オンライン・SMS で販売されている。
- ダイエタリーサプリメントは FDA に認可されてはいない
- 警告信号を知ろう : すぐに痩せるという約束、「保証」や「科学的な大発見」などの文言、外国語での販売製品、大量の電子メールによる販売製品、FDA 承認薬のハーブ代替品である・承認薬と同様の効果があると宣伝された製品
- 消費者へのアドバイス : 自分に追加で必要な栄養について医療従事者とともにチェックする、真実とするには話が良すぎないかと自問自答する、表示の文言が大きさで非現実的な場合には注意する、「すぐに効果が出る」や「完全に安全」などの極端な文言には気を付ける、信じられないような個人経験談は疑う。

3. 公示

次の製品には表示に記載のない医薬品成分が含まれる。製品の写真は各ウェブサイトを参照。

- Slim-K

12-23-2014

<http://www.fda.gov/Drugs/ResourcesForYou/Consumers/BuyingUsingMedicineSafely/MedicationHealthFraud/ucm427815.htm>

FDA の検査によりシブトラミンとフェノールフタレインが検出された。

- B-Lipo

12-23-2014

<http://www.fda.gov/Drugs/ResourcesForYou/Consumers/BuyingUsingMedicineSafely/MedicationHealthFraud/ucm427809.htm>

FDA の検査によりロルカセリンが検出された。

- Triple PowerZEN Gold

12-23-2014

<http://www.fda.gov/Drugs/ResourcesForYou/Consumers/BuyingUsingMedicineSafely/MedicationHealthFraud/ucm427827.htm>

FDA の検査でシルデナフィルが検出された。

- Zhansheng Weige Chaoyue Xilishi

12-23-2014

<http://www.fda.gov/Drugs/ResourcesForYou/Consumers/BuyingUsingMedicineSafely/MedicationHealthFraud/ucm427831.htm>

FDA の検査でシルデナフィルが検出された。

- Samurai-X

12-23-2014

<http://www.fda.gov/Drugs/ResourcesForYou/Consumers/BuyingUsingMedicineSafely/MedicationHealthFraud/ucm427824.htm>

FDA の検査でシルデナフィルが検出された。製品の写真あり

4. 警告文書

- Gerratt Dairy 12/15/14

<http://www.fda.gov/ICECI/EnforcementActions/WarningLetters/2014/ucm427438.htm>

食用として販売された乳牛の残留動物用医薬品アンピシリン。

- Wellmill LLC/DBA Vitamix Laboratories 12/18/14

<http://www.fda.gov/ICECI/EnforcementActions/WarningLetters/ucm428000.htm>

ダイエタリーサプリメント CGMP 違反、表示違反 (表示と違うものを入れている) など。

- Dandy Day Corporation 12/17/14

<http://www.fda.gov/ICECI/EnforcementActions/WarningLetters/ucm427987.htm>

ダイエタリーサプリメント CGMP 違反、疾患の治療や予防宣伝 (アロエベラが抗菌抗ウイルス作用があるなど) が未承認新規医薬品違反。

- Sunsweet Growers 10/2/14

<http://www.fda.gov/ICECI/EnforcementActions/WarningLetters/ucm428002.htm>

ダークチョコレート製品の栄養強調表示 (健康的な抗酸化) が基準違反。「健康的 healthy」という表示は 40g あたり 5g の飽和脂肪を含む製品には使用できない、アレルギー表示の不備など。

5. 敏感な集団を食品中の汚染物質から守る

Protecting Susceptible Populations from Chemical Contaminants in Food

Posted on December 31, 2014 by FDA Voice By: Suzanne Fitzpatrick, Ph.D., DABT

<http://blogs.fda.gov/fdavoic/index.php/2014/12/protecting-susceptible-populations-from>

[-chemical-contaminants-in-food/](#)

誰もが、長期に摂取すると有害影響をもつ可能性のある化学汚染物質を微量含む食品を常に食べている。しかし一部の集団は他の集団より感受性が高く、長期暴露による有害影響がおこる可能性が高い。我々はこれらの集団を「影響を受けやすい集団 (susceptible population)」と呼ぶ。

FDA の食品の安全を確保する任務は一般人に限ったものではなく、敏感な集団を守る責任もある。妊娠女性、乳幼児、高齢者などはこれまでも感受性の高い集団とみなされてきた。さらにがんや糖尿病、HIV/AIDS、移植患者なども免疫機能が弱っている可能性があり、リスクが高い。感受性の高い集団を最大限に守るために FDA は 12 月 16～17 日に食品助言委員会を開催した。我々は食品助言委員会に難しい質問をした。感受性の高い集団の定義、特別な評価が必要な条件などである。リスク評価の際に感受性の高い集団についてより良く理解できるようになることを望む。

● 米国環境保護庁 (EPA : Environmental Protection Agency) <http://www.epa.gov/>

1. EPA の改訂クロルピリホス評価は労働者へのリスクを示す

EPA Revised Chlorpyrifos Assessment Shows Risk to Workers

01/05/2015

<http://yosemite.epa.gov/opa/admpress.nsf/bd4379a92ceceac8525735900400c27/6b1d8a363e75a61e85257dc4006b1524!OpenDocument>

本日、EPA はクロルピリホスのヒト健康リスクの可能性に関する評価をパブリックコメント募集のために発表した。

この評価では、製品を混合、積み込む、散布する労働者に幾分かリスクがあるとした。大量に使用した場合、クロルピリホスは小流域由来の飲料水を利用している一部地域にリスクとなる可能性がある。食品からの暴露や近傍にいるヒトへの暴露、空気中のクロルピリホスに暴露される労働者に追加のリスクはない。最新の USDA の残留農薬データによると検体の 1%未満でしかクロルピリホスは検出されず、懸念はない。

リスク評価の結果に基づき、労働者と飲料水源保護のための追加の制限が必要になるかもしれない。EPA はこれらのリスクを減らすための対策について検討を始める。

本件についての意見募集は 60 日間実施する。

クロルピリホスのヒト健康リスク評価改訂

Revised Human Health Risk Assessment on Chlorpyrifos

<http://www2.epa.gov/ingredients-used-pesticide-products/revised-human-health-risk-assessment-chlorpyrifos>

生理学に基づくファルマコキネティクス/ファルマコダイナミクス(PBPK/PD)モデルを使った最初リスク評価だとしている。ハザードキャラクターゼーションではアセチルコリンエステラーゼ (AChE) 阻害及び神経発達影響をエンドポイントとし、weight-of-the-evidence (WOE) には、1) 胎児・乳幼児期の暴露に由来する長期影響があるか、2) RBC AChE 10%阻害を引き起こすよりも低い用量に起因する有害影響があるか、が検討された。初期暴露による長期影響(発達神経影響)が可能性はあるものの作用機序が確立されていないので乳幼児や妊婦について10倍の安全係数は削減しない、RBC AChE 10%阻害を各動物で比較した結果としてクロルピリホスの種差は4倍(ただしオキソン体は5倍)の範囲内とした。従ってクロルピリホスの安全係数は、成人女性は安全係数100(種差10、個人差10)、その他のヒトは40(種差4、個人差10)とした。

●米国農務省 (USDA : Department of Agriculture)

<http://www.usda.gov/wps/portal/usdahome>

1. USDA は農薬データ計画の2013年年次要約を発表

USDA Releases 2013 Annual Summary for Pesticide Data Program

December 19, 2014

<http://www.ams.usda.gov/AMSv1.0/getfile?dDocName=STELPRDC5049944>

USDA の AMS (Agricultural Marketing Service) は、農薬データ計画 (PDP: Pesticide Data Program) の 2013 年年次要約を発表した。PDP 要約では、調べた食品に検出された残留農薬は全体として EPA の設定したトレランスレベルより低く、安全上の懸念とはならないことを確認した。

2013 年 PDP 年年次要約では 99%以上の食品が EPA のトレランス以下だった。基準を超過していたのは 0.23%であった。PDP による検査結果は月間報告として FDA と EPA に伝えられ、異常値が見つかり安全上のリスクがあれば直ちに伝えられる。

***Pesticide Data Program**

Annual Summary, Calendar Year 2013

December 2014

<http://www.ams.usda.gov/AMSv1.0/getfile?dDocName=STELPRDC5110007>

(要約)

1991 年に USDA が AMS に PDP の計画及び実施を委託して以降、今回が 23 回目の報告である。この情報は、米国環境保護庁 (EPA) に提供される。EPA は、企業が米国内で農薬を販売又は卸す前に、ヒト健康や環境にリスクがないと決定するために当該農薬についての試験をレビューしなければならない。EPA がその決定をすれば、ラベルの支持に従っ

た範囲内で使用できるよう農薬登録等がなされる。農薬の食品への使用認可の前には、EPAは使用基準と残留基準を設定する。EPAは労働上での農薬暴露から労働者を保護するための基準も設定している。

検査対象の選定はEPAによるデータの必要性和乳幼児の喫食量を考慮して、暴露評価に使えるよう厳密な統計学的デザインに基づいている。13州が協力し、各州の検体数は人口に応じて割り当てられ、消費する場所に近いところ（農場ではなく販売センター）から無作為に検体を取り、消費者が年間を通じて最も良く食べるものを反映している。

2013年には10,104検体を集め、そのうち生鮮及び加工野菜・果実は84.4%、その他はバター7.5%、乳児用ミルク3.5%、サーモン3.5%、水1.1%だった。全てが国内産であった水を除き、国産品は70.8%、輸入品が26.6%、ミックスが1.9%、不明が0.7%だった。

PDPのデータは主にリスク評価が目的であるため、検査法はEPAの設定したトレランスより低い値でも検出できるように調整されている。また検査の前に、バナナ以外は、消費者が行うのと同じように洗剤や特別なものを使わずに流水で15~20秒間優しく洗浄した。さらに、食用にはしない部分や傷ついた部分は取り除いたり、表示に従って調整をした（バナナの皮は剥く、ニンジンの上だけ切り取る、桃は種を除く、濃縮ジュースは指示通り希釈、など）。野菜・果実の検体については386の農薬・その代謝物・分解物・異性体及び21の環境物質について検査した。検査結果は200万以上になるため、この報告書には全てを掲載しない。データファイルはウェブ上あるいは直接要求すると入手できる。

2013年は40%以上の検体からは残留農薬は検出されなかった。水を除く9,990検体中残留農薬基準値超過は0.23%（23検体）だった。そのうち17検体は輸入品で国産品が6検体だった。トレランスが設定されていない農薬が検出されたのは3.0%（301検体）で、そのうち151検体が国産、148検体が輸入、2検体が産地不明だった。これらについてはEPAとFDAに報告した。

トレランス超過があったものはメキシコ産ブロッコリのシベルメトリン、メキシコ産セロリのミクロブタニル、米国産サヤインゲンのシフルトリン・ジノテフラン・テブコナゾール、チリ産ネクタリンのテブコナゾール（11件）、チリ産プラムのテブコナゾール、メキシコ産ラズベリーのアバメクチン、米国産およびメキシコ産サマースカッシュのアセフェート・テトラヒドロフタルイミド（キャプタン、カプタホルの代謝物）・チアメトキサムであった。

***読者の皆様へ**

Letter to the Reader – From 2013 PDP Summary

<http://www.ams.usda.gov/AMSv1.0/getfile?dDocName=STELPRDC5091059>

***消費者が知るべきこと**

What Consumers Should Know

<http://www.ams.usda.gov/AMSv1.0/getfile?dDocName=STELPRDC5091057>

- ・ PDP データは検査した食品の残留農薬は全体として EPA の設定したトレランス以下で安全上の懸念はないことを示している
- ・ 毎年 USDA と EPA は協力して調べるべき食品を決めている
- ・ PDP データは実際に米国各地や海外で育てられている食品の残留農薬の実態を反映している
- ・ EPA は食品や水、家庭環境など全ての暴露源からのルートを考慮して残留レベルを設定している
- ・ 農薬は使用前に EPA による評価を受ける
- ・ PDP の検査法はトレランス以下であっても可能な限り少量の農薬を検出できるようにしている
- ・ もしトレランス超過やトレランスのない農薬が検出された場合には EPA と FDA に報告する。
- ・ EPA は定期的に農薬登録を見直している、など。

*Q & A

<http://www.ams.usda.gov/AMSv1.0/getfile?dDocName=stelprdc5098551>

*その他 SOP やデータの ZIP ファイルなどは以下から入手可能

PESTICIDE DATA PROGRAM (PDP)

<http://www.ams.usda.gov/AMSv1.0/ams.fetchTemplateData.do?template=TemplateC&navID=PesticideDataProgram&rightNav1=PesticideDataProgram&topNav=&leftNav=ScienceandLaboratories&page=PesticideDataProgram&resultType=&acct=pestcddataprogram>

2. USDAAPHIS (Animal and Plant Health Inspection Service)

USDA はジカンバ/グルホシネート耐性綿およびジカンバ耐性大豆についての最終環境影響声明を発表

USDA Announces Final Environmental Impact Statement on Dicamba/Glufosinate Tolerant Cotton and Dicamba Tolerant Soybean

Last Modified: 2014/12/12

http://www.aphis.usda.gov/wps/portal/aphis/home!/ut/p/a1/hY7LDoIwEEW_hQVbOjwEdAeSSBEL0USHG1OSviNQCBYS_95K3Jj4mN3cOSd3EEEpIpxOVUFF1XHaPHdiX6IkNHQfDjxssQ14fzqAHwY6HE0JZBKAL-PBP_-MyIysN15oObF0LNcAHMi7s9wBYPsFKiIECmaLp_fzTyem26ByMCubGCDNg4yLoXoVyqoQLWSCsapxplW9yqMnN1pS1X4pJbdTaD0XUF9m0K9aKbYU5QHgzKGjw!!/?1dmy&urile=wcm%3apath%3a%2Faphis_content_library%2Fsa_newsroom%2Fsa_news%2Fsa_by_date%2Fsa_2014%2Fct_12%2Fct_brs_final_eis_cotton_soybeans

ジカンバ/グルホシネート耐性綿およびジカンバ耐性大豆についての最終環境影響声明を発表した。30日間の公開期間の後、官報に掲載する予定である。

***ファクトシート**

モンサントのジカンバ/グルホシネート耐性綿およびジカンバ耐性大豆についての最終環境影響声明

Final Environmental Impact Statement Monsanto's Dicamba/Glufosinate Tolerant Cotton and Dicamba Tolerant Soybean

http://www.aphis.usda.gov/publications/biotechnology/2014/faq_brs_final_eis_cotton_soybeans.pdf

(一部抜粋)

Q: ジカンバとは何か?

A: ジカンバは選択的安息香酸除草剤で芳香族酸系除草剤の一種である。1967年からEPAは広範な農業・工業・住居用に使用を認可してきた。ジカンバは95種類以上の雑草のコントロールや100以上の多年生広葉および木本植物の抑制に効果がある。

Q: なぜ新しい除草剤耐性品種を作ったのか?

A: 新しい除草剤耐性品種は生産者、特にグリホサート耐性雑草に苦慮している人たちに、追加の除草剤管理ツールを与えるものである。

3. 添加溶液を含む生肉及び家禽製品の説明表示

Docket No. FSIS-2010-0012

Descriptive Designation for Raw Meat and Poultry Products Containing Added Solutions

<http://www.fsis.usda.gov/wps/wcm/connect/95915f2e-9272-4a1d-8b52-5a2147cb8c59/2010-0012.htm?MOD=AJPERES>

添加溶液を含む生肉及び家禽製品の説明表示の規則を改定する。添加された溶液のパーセンテージを数字と%で示し、溶液の成分を記載することが求められる。“containing”や“contains”という記載は可能だが、“enhanced”を製品名に含めることは認められない。

消費者の購入品についての誤解を招くことがないように改定するものであり、2016年1月1日に発効する。

● NIH (米国国立衛生研究所) の the National Library of Medicine

<http://www.nlm.nih.gov>

1. 多くの消費者がインチキの減量サプリメントにまどわされている、調査の結果

Many Consumers Misled About Bogus Weight-Loss Supplements, Survey Says

By Mary Elizabeth Dallas

Tuesday, December 30, 2014

http://www.nlm.nih.gov/medlineplus/news/fullstory_150198.html

ー Consumer Reports の調査によると購入者はこれらの製品が FDA の監視下にあると間違
って信じているー

Consumer Reports の調査は、多くの米国人がサプリメントの有効性と安全性について間違った情報を与えられていることを示した。宣伝の洪水が我々に体重を減らす魔法の方法があると考えるように仕向けているが、サプリメントに効果があるという根拠はない。減量サプリメントの表示は医薬品の表示に似ており、サプリメントの成分表示は食品の栄養成分表示に似ているので、消費者には違いがわからない。従って約 3,000 人の米国人の調査で、約 20%がこれらの減量サプリメントの安全性と有効性を FDA が保証していると間違
って信じていることが判明したことは驚くにあたらない。サプリメントについて FDA は精
査していないにもかかわらず、一見科学的なサプリメントのラベルが誤解を与える。

回答者の 1/4 以上が過去に減量用の製品を使用したことがあり、その製品が安全で有効だ
と信じていた。また 25%はサプリメントの方が医薬品より副作用が少ないと信じていた。
しかし同時に、減量サプリメントの使用者の約半分が少なくとも 1 つの副作用を経験して
いることから、それは事実ではないことも明らかになっている。

全てのサプリメントの中でも、減量用サプリメントは最も有害であると考えられ、肝障
害や死亡さえ引き起こしている。減量サプリメントの使用者の 1/3 は別の病気で処方薬を服
用中であり、多くが医師にサプリメントの使用を報告していない。

サプリメントのボトルの中に何が入れているのかを知る方法はない。消費者は製造
業者のいいなりである。サプリメントにお金を使うより食生活に気をつけるほうが良い。

●ニューヨーク市保健精神衛生局

(NYC DOHMH : New York City Department of Health and Mental Hygiene)

<http://www.nyc.gov/html/doh/html/home/home.shtml>

1. 保健省は食品販売業者がより健康的な食品を容易に強調できるようにする「グッドチ ョイス」イニシアチブを開始

Health Department Launches “Good Choice” Initiative to Make it Easier for Food
Distributors to Highlight Healthier Products

Monday, December 22, 2014

<http://www.nyc.gov/html/doh/html/pr2014/pr047-14.shtml>

Sysco、US Foods 及び Driscoll Foods が健康的な食品を強調することに参加する。25 の食品群毎に NYC Food Standards に基づく栄養基準を定め、適合する食品に Good Choice と強調できるものである。

* Good Choice

<http://www.nyc.gov/html/doh/downloads/pdf/home/good-choice.pdf>

* NYC Agency Food Standards

<http://www.nyc.gov/html/doh/html/living/agency-food-standards.shtml>

● カナダ病害虫管理規制局 (PMRA : Pest Management Regulatory Agency)

<http://www.hc-sc.gc.ca/index-eng.php>

1. 再評価通知 REV2014-06、特別レビュー開始：ウリ科植物に使われるクロチアニジン、イミダクロプリド、チアメトキサムへの *Peponapis pruinosa* 暴露に関連する環境リスクの可能性について

Re-evaluation Note REV2014-06, Initiation of Special Reviews: Potential environmental risk related to *Peponapis pruinosa* exposure to Clothianidin, Imidacloprid and Thiamethoxam used on cucurbits

3 December 2014

<http://www.hc-sc.gc.ca/cps-spc/pubs/pest/decisions/rev2014-06/index-eng.php>

カボチャ、スカッシュ、スイカなどに使われるクロチアニジン、イミダクロプリド、チアメトキサムを含む登録製品を対象に、スカッシュミツバチ (*Peponapis pruinosa*) への環境リスクについて特別レビューを行う。

● ニュージーランド一次産業省 (MPI : Ministry of Primary Industry)

<http://www.mpi.govt.nz/>

1. 行楽客に貝中毒リスクが高いことを警告

Holidaymakers warned about high risk of shellfish poisoning

Date: 23 Dec 2014

<http://www.mpi.govt.nz/news-and-resources/media-releases/holidaymakers-warned-about-high-risk-of-shellfish-poisoning/>

一次産業省 (MPI) は行楽客が麻痺性貝毒中毒になるリスクが高いことに気がつかないまま貝を採って食べようと Plenty 湾に向かっていることを心配している。Plenty 湾沿岸の

ほとんどの貝を採捕しないようにという健康警告が発せられている。MPI は毎週ニュージーランド沿岸の海水と貝を検査し、毒素がある場合は健康警告を出している。

Marlborough 地域でも警告に注意が必要である。Tory Channel にも *Alexandrium catenella* の大発生のため警告が出ている。この大発生はここ数年毎年起こり Queen Charlotte Sound まで貝の汚染が拡大する可能性がある。

プレンティ湾地域のモニタリングでは毒素濃度が非常に高く（一部は警告を出すレベルの 20 倍）、さらに増加している可能性がある。このような高濃度では集中治療が必要になる。2 年前、30 人が中毒になり数人は集中治療が必要だった。2014 年にこれまで健康局に報告された貝毒中毒事例は 13 症例で何人かは入院している。彼らはプレンティ湾沿岸の貝を食べている。リスクがあるにもかかわらず、問題の地域の貝を採り続けている人がいるようである。

先週、警告範囲が拡大された。問題となっているのは *Alexandrium minutum* で、ニュージーランドの水域の多様な有毒藻類のうち最も毒性の高い化合物を作る。

* Marine biotoxin alerts

<http://www.foodsmart.govt.nz/food-safety/hunting-collecting-fishing/seafood-gatherers/>

警告対象地域に関する情報をまとめたサイト

● 香港政府ニュース

<http://www.news.gov.hk/en/frontpagetextonly.htm>

1. 野菜・果実の農薬検出

- 野菜検体から農薬が検出された

Pesticide found in vegetable sample

January 02, 2015

http://www.news.gov.hk/en/categories/health/html/2015/01/20150102_154431.shtml

サイシン (choi sum、菜心) 1 検体から基準値を超える農薬が検出された。通常の摂取で健康への有害影響はありそうにない。

- オレンジから農薬が検出された

Pesticide found in orange sample

December 31, 2014

http://www.news.gov.hk/en/categories/health/html/2014/12/20141231_161126.shtml

オレンジ 1 検体から基準値を超える農薬が検出された。通常の摂取で健康への有害影響はありそうにない。

- レタスから過剰量の農薬が検出された

Excessive pesticide found in lettuce

January 05, 2015

http://www.news.gov.hk/en/categories/health/html/2015/01/20150105_193319.shtml

レタス (Chinese lettuce) 2 検体に基準値を超える残留農薬が確認された。1 検体はメソミルが 0.77 ppm (基準値 0.2 ppm)、もう 1 検体はジメトエートが 2.6 ppm (基準 1 ppm) 検出された。通常の摂取で健康への有害影響はありそうにない。

2. 99.9%の検体は安全性検査に合格

99.9% of samples pass food safety tests

December 31, 2014

http://www.news.gov.hk/en/categories/health/html/2014/12/20141231_143702.shtml

食品安全センターは 11 月に食品 13,300 検体の検査を行い、99.9%が合格であり、既に発表した 12 検体の他に、使用されている甘味料が表示されていない 2 検体の氷菓のみが不合格だった。この 2 検体は輸入時に確認され、市場には流通していない。

● 韓国食品医薬品安全処 (MFDS : Ministry of Food and Drug Safety)

<http://www.kfda.go.kr/intro.html>

1. 日本産輸入食品の放射能検査の結果

検査実施課/輸入食品政策課

- 2014.12.12.~2014.12.18

<http://www.mfds.go.kr/index.do?mid=676&seq=25973>

- 2014.12.5.~2014.12.11.

<http://www.mfds.go.kr/index.do?mid=676&seq=25891>

2. 「民間専門家委員会」日本の放射能安全管理現地調査の実施

検査実施課 2014-12-12

<http://www.mfds.go.kr/index.do?mid=675&pageNo=2&seq=25890&cmd=v>

韓国政府は、日本放射能安全管理民間専門家委員会 (委員長李ジェギ教授) が日本産食品に対する放射能安全管理状況を確認するために 2 回 (2014 年 12 月、2015 年 1 月) にわたり現地調査すると発表した。

今回の調査は、現地の水産物市場 (港湾含む)、民間検査機関、政府機関、地方自治体、消費者団体などを訪問し、日本国内の放射能安全管理状況を確認するものである。

1 次現地調査は 12 月 14 日~19 日の予定であり、日本政府の水産物総合モニタリング計画、政府測定結果の管理、汚染水中長期管理対策など放射能検査と追加汚染予防管理を重

点に点検する。

2次調査は翌年1月12日～17日の予定で、操業地域管理状況、放射能検査証明書発給状況など食品放射能安全管理を中心に点検する。

現地調査結果は臨時特別措置の検討に反映し、国民に公開する。民間専門家委員会は、2014年9月22日に日本臨時特別措置の検討のために発足し、これまで6回会議を開催した。その間、日本政府が提供した資料について放射能検査結果の統計的分析、放射性セシウムの食品放射能検査指標物質としての適正性、臨時特別措置状況での放射性セシウム暫定基準値100 Bq/kg設定の科学的合理性、その他の核種の追加検査証明書要求の適正性など、テーマ別に議論された。

3. 飼料用に輸入した原料で製造した「プロポリス」製品の回収措置

不良食品根絶推進団 2014-12-11

<http://www.mfds.go.kr/index.do?mid=675&pageNo=2&seq=25880&cmd=v>

食品医薬品安全処は、食品製造加工業者（株）バイオプロテックが飼料用に輸入したプロポリスを食品の原料に使って製造・加工した製品（類型：飲料品）を販売中断及び回収措置すると発表した。

4. ミックスドリンクが身長伸びに効能があるかのように虚偽・誇大広告した会社摘発

危害師範中央調査団 2014-12-10

<http://www.mfds.go.kr/index.do?mid=675&pageNo=2&seq=25858&cmd=v>

食品医薬品安全処は、食品原料に使用できない牛皮消（ガガイモ科植物）を用いて製品を生産した食品製造業者代表と当該製品が成長期児童の身長伸びに効能があると虚偽・誇大広告した販売業社代表など5人を「食品衛生法」違反疑いで摘発、検察に送致した。

この事件は不正不良食品根絶のために「食品衛生法」に刑量下限制及び不当利得還収制を取り入れて以来（2014年1月）食薬処が摘発して適用される最初の事例で、被疑者の犯罪事実が認められた場合1年以上7年以下の懲役（刑量下限制）及び販売価格の4倍以上10倍以下の罰金刑（不当利得還収制）の処罰が下される。

● シンガポール農畜産食品局（AVA : Agri-Food Veterinary Authority of Singapore）

<http://www.ava.gov.sg/>

1. 台湾産 Huang Dah Mu ブランドの乾燥豆腐リコール

Recall of Huang Dah Mu brand dried tofu from Taiwan

19 December 2014:

<http://www.ava.gov.sg/NR/rdonlyres/9253E7B2-E57D-4992-982C-1304E73748D6/28553/>

[foodalert_RecallofHuangDahMubranddriedtofufromTaiw.pdf](#)

台湾産 Huang Dah Mu ブランドの乾燥豆腐に認可されていない色素ジメチルイエローが検出された。AVA は輸入業者に対し、直ちにリコールを行うよう要請した。当該製品の写真は本ウェブサイトを参照。

2. スイス産 Holle ブランド乳児用食品から認可されていない化合物が検出されたためリコール

Recall of 2 batches of Holle brand infant food from Switzerland due to detection of non-permitted chemicals

17 December 2014

http://www.ava.gov.sg/NR/rdonlyres/9253E7B2-E57D-4992-982C-1304E73748D6/28538/foodalert_Recallof2batchesofHollebrandinfantfoodfr.pdf

アトロピン及びスコポラミンが検出されたスイス産 Holle ブランドのオーガニック乳児用食品（おかゆ）の 2 バッチがシンガポールに輸入されていることが判明したため、AVA は輸入業者にリコールを要請した。購入した消費者は問題の製品は乳児に与えないように。当該製品の写真と製品の詳細については本ウェブサイトを参照。

● その他

EurekAlert

1996 年から 2013 年の間にファストフードの大きさや組成はあまり変化していない

Little change seen in fast food portion size, product formulation between 1996 and 2013
31-Dec-2014

http://www.eurekalert.org/pub_releases/2014-12/tuhs-lcs123014.php

タフツ大学の研究者による二つの新しい報告が、1996 年から 2013 年の間にファストフードの大きさや組成があまり変化していないことを示した。米国 CDC の学術雑誌である *Preventing Chronic Disease* に発表された研究によると、3 つのナショナルファストフードチェーンのメニューの平均カロリー、ナトリウム、飽和脂肪は高いまま一定であった。例外はフライで、2001 年に飽和脂肪が減少し、2005 年から 2009 年にトランス脂肪が減少した。これは揚げ油の変更によると考えられている。

書誌事項

● **Environmental Health Perspectives** のトピックス

「ちょうどいいところ」を探して：コメのヒ素を規制するという課題

In Search of “Just Right”: The Challenge of Regulating Arsenic in Rice

Charles W. Schmidt (サイエンスライター)

<http://ehp.niehs.nih.gov/123-A16/>

ヒ素の作用 : DNA メチル化標的が毒性メカニズムの候補

Inner Workings of Arsenic: DNA Methylation Targets Offer Clues to Mechanisms of Toxicity

Lindsey Konkel

<http://ehp.niehs.nih.gov/123-A21/>

* Gene-Specific Differential DNA Methylation and Chronic Arsenic Exposure in an Epigenome-Wide Association Study of Adults in Bangladesh.

Maria Argos et. al., EHP 2015, 123(1) 64-71

● *Salicornia herbace* 摂取後のヨウ素誘発性甲状腺傷害性低カリウム性麻痺

Iodine-induced thyrotoxic hypokalemic paralysis after ingestion of Salicornia herbace.

Yun SE, Kang Y, Bae EJ, Hwang K, Jang HN, Cho HS, Chang SH, Park DJ.

Ren Fail. 2014 Apr;36(3):461-3

● エネルギードリンク誘発性の急性腎障害

Energy drink-induced acute kidney injury.

Greene E, Oman K, Lefler M.

Ann Pharmacother. 2014 Oct;48(10):1366-70

<http://www.ncbi.nlm.nih.gov/pubmed/24986632>

以上

食品化学物質情報

連絡先 : 安全情報部第三室